

ごあいさつ



公益社団法人 日本 WHO 協会

理事長 関 淳一

南米大陸ではじめてのブラジル、リオ・デ・ジャネイロでのオリンピック・パラリンピック大会（以下、リオ大会とする）が目前に迫り、日本国内でも、テレビや新聞紙上を賑わしています。ただ、リオ大会に関しては、運悪く昨年来の中・南米を中心とした Zika 熱の流行が尚続いており、ブラジルへの選手団、観客の渡航が一時危ぶまれた時期がありました。

WHO の専門委員会は、この状況に対して、これ迄たびたびその時々の Zika 熱の流行の状況を公表すると共に国際オリンピック委員会（IOC）やブラジルの関連機関等に対して助言的な発表をしてきました。

去る 5 月 28 日には「現時点の評価としては、リオ大会の中止あるいは開催地の変更等の措置は Zika ウイルスの国際的な拡散に大きな変化をもたらすことはないであろう」という見解を示しています。また、直近の 6 月 14 日にも、リオ大会（8 月 5 日から 9 月 18 日）は、開催地が冬の季節に入ることから前回の声明における見解を再確認しています。ただ現時点で Zika ウイルス感染はブラジルを含め 61 ヶ国地域に亘っており、これらの流行地域への旅行者は、旅行に関する公衆衛生上の注意事項を守ることが求めています。Zika ウイルス感染症と小頭症をはじめとした胎児の先天異常との関係を重く見て、特に妊婦については地域への旅行は見合わせる様求めています。更に、Zika ウイルス感染症が性感染症でもあることから、妊娠中、又は妊娠の可能性のある女性のパートナーの男性に対しても、流行地へ旅行した場合は、その後の性生活等におけ

る十分な配慮を求めています。

リオ大会が成功裏に終わることを祈ると共に、この大会での様々な経験は 4 年後の東京大会の参考になることと思えます。

去る 4 月 28 日に「健康経営のすすめ」～ストレスチェック制度の運用を含めて～と題して、NPO 法人健康経営研究会理事長岡田邦夫先生に御講演頂きました。

「健康経営」という言葉とその概念の創始者である岡田邦夫先生は直近の企業の職場で働く人々の心身の健康状態を初め、国内外での健康経営に対する考え方など非常に広範囲に亘る課題を丁寧に話され、私自身学ぶことが多々ありました。今回、その時の講演録を掲載いたしました。御多忙の中ご講演頂いた岡田邦夫先生に厚くお礼を申し上げます。

また、今回順天堂大学大学院医学研究科の山内祐人氏に WHO 西太平洋地域事務局（WPRO）の結核・ハンセン病課のボランティアとして仕事をされた時の経験をご寄稿いただきました。それ迄の研究・活動の主たる対象であったリンパ管フィラリアとは異なる対象疾患についての仕事をされて、様々なことを学ばれた様子が伺えるレポートでした。山内祐人様の今後のご活躍を期待します。

今回、「目で見える WHO」60 号を発行するに当たり御協力を賜りました皆様にこの場をお借りして、心から厚くお礼申し上げます。

2016 年 7 月